本邦產カマガタアブラと其一新種

進 士 織 平

NOTES ON THE JAPANESE *YAMATOCALLIS* WITH THE DESCRIPTION OF A NEW SPECIES.

By O. SHINJI

內地產のカマガタアブラにはクロバネカマガタアブラとヒラヤマカマガタアブラとの二種あり、下記檢索表に依りて區別し得らるべし。

カマガタアブラ屬の種の檢索表

1\. 翅は殆んど全面に亙りて黑褐色に霞み、有翅胎生雌蟲の第3觸角節には6乃至7個の後生感覺器あり。……………………クロバネカマガタアブラ

翅は前緣に沿ふ部分と脛分脈よりも前方の部分のみ霞み、有翅胎生雌蟲の第3觸角節には10個以上の感覺器を有す。……………………ヒラヤマカマガタアブラ

1. ヒラヤマカマガタアブラ

Yamatocallis hirayamae MATSUMURA

Yamatocallis hirayamae MATS., Jour. Coll. Agri., Tohoku Imp. Univ. Vol. VII, pt. 6, p. 367, 1917.

Drepanaphis tokyoensis TAKAHASHI, Aphid. Formosa, pt 2, p. 66. 1923.

Chaitophoraphis aceriftoris SHINJI, 動物學雜誌 第35卷307頁, 1923.

有翅胎生雌蟲

體は顯著なる毛を缺き綠色若くは帶赤黃色なり。頭部は幾分薄黑く、顯著なる毛を缺けり。額瘤は顯著にして共に內側端は外側へ傾けり。1個の剛毛を生ぜり。

複眼は赤色乃至濃赤色にして同色の眼瘤を伴ひ單眼3個の周緣は赤色乃至濃赤色なり。觸角は體よりも遙かに長く細くして6節より成れり。第3節の中部と第4節の基部より末端に近き大部分とは淡綠色、殘部並に殘節は黑色にして、第3節の末端より第6節の末端に至る部域は覆瓦狀を呈せり。第1節は第2節の約2倍大、第2節は幅よりも幾分長し、第3節は第6節に次ぐ長片なり。其基部にして全長の約5分の1に當る部域には約5乃至8個の半圓形感覺器を有

せり。第4、第5兩節は殆んど等長。第6節の鞭狀部は基部の約2倍長あり。第5及び第6兩節の原生感覺器は準圓狀なり。胸部は前胸幾分薄黑味を帶び殘餘の胸部は薄黑し。肢脚は前、中兩腿節全部と脛節の末端と跗節と爪とは黑色、殘部は體と同色なり。前腿節は著しく肥大して他の2,3倍の幅を有せり。腹部は背面に黑色の斑紋を缺けり。翅は概して暗褐色乃至薄黑く亞緣脈の終點と脛分脈と翅斑との中間と第1及び第2斜脈間の周緣なる小域とは黑色を帶びたり。中脈の第1枝は第2枝の中點より生ぜり。後肢の肘脈は極めて翅基に近く生ぜり。蜜槽はへの字形に曲り基部は末端の約2倍大に膨れたり。尾片は瘤狀にして薄黑く、多數の毛を生ぜり。尾板は幾分彎入せり。

雄　　蟲

體は有翅胎生雌蟲に似たり。地色は煉瓦色なれども、黑色の斑紋存在して爲めに背部は黑色に見ゆ。多數の長毛を生ぜり。口吻は辛じて後肢の基節窩に達し、概して黑色にして若干の毛を生ぜり。複眼は黑色にして同色の眼瘤を伴へり。觸角は6節より成りて各節は長毛を生じ、全長に互り黑色を呈せり。第1節は第2節よりも大に、第3節は最長片にして約100個の小圓感覺器を具へたり。第4第5の兩節は約同長にして前者には50乃至60個、後者には14乃至18個の感覺器を具へたり。胸部は黑色なり。翅は準透明にして、翅脈と翅斑とは暗褐色、脈相は有翅胎生雌蟲に於けるが如し。

肢脚は多數の長毛を生じ、概して黑色なり。腹部は背面に黑色の斑紋を具へたり。蜜槽は準裁斷形にして網狀を呈し、黑色なり。尾片は圓く終り黑色なり。抱擁器は角質にして黑色なり。

宿主植物　イタヤカヘデ、カヘデ。

分布　盛岡、水戶、弘前、鹿島臺（宮城縣）、福島、東京。

習性　春夏の候には其の數少く、常に葉裏に寄生し、大型なる翅を背部に折り重ねて懸垂す。晩秋の候に及べば其の數逐次增加し葉柄乃至花梗等にも集中するを見る。各卵は芽蕾と枝面との接觸點に產せらる。

2. クロバネカマガタアブラ（新稱）

Yamatocallis moriokae n. sp.

有翅胎生雌蟲

體は長楕圓形にして若干の寧ろ長き毛を粗生し、地色は綠色若くは帶黃綠色

なり。頭部は黑色を帶びたり。前額瘤は顯著にして1個の長毛を生ぜり。口吻は中肢の基節を過ぎて伸び、末端は黑色を帶びたれ共、殘部は體と同色なり。複眼は顯著にして赤色乃至濃赤色なり、同色の眼瘤を伴へり。單眼は顯著なり。觸角は體よりも長くして細く、6節より成りて第3、第4節の末端部と、第5第6兩節の全部とは覆瓦狀を呈し、且つ之等の部分と第3節の基部とは黑色、殘部は體と同色なり。第1節は第2節の約2倍大、第2節は長、幅約同大なり。第3節は第4節よりも長し。基部は後半部の約2倍大に肥厚し、此部に約5個の楕圓狀後生感覺器を具へたり。第4節は第5節と約同長、第6節の鞭狀部は基部の約2分の1長あり。胸部は薄黑く、內部の筋肉は琥珀色なり。肢脚中、前肢の腿節は膨大して莢狀を成し、中、後兩腿節は普通なり。腿節と脛節の末端部と跗節と爪とは黑く殘部は體と同色なり。翅は殆んど全部に亙りて黑褐色に霞みたれども前緣と脛分脈とに圍まるゝ一小部分と、第1、第2兩斜脈間の後緣の小部分とは準透明なり。

蜜槽は準德利狀にして開口部附近は曲れり。末端のみ黑色なり。尾片は瘤狀にして約2對の長毛を生じ、黑色なり。尾板は圓く、若干の毛を生ぜり。

雄　蟲

體は長卵狀にして極めて小數の短毛を生じ、地色は綠色、黃色、赤色等なり。頭部は兩側緣と正中線に沿ふ小域が黑く、他は薄黑し。前額瘤は顯著にして薄黑し。複眼は顯著にして赤色、同色の眼瘤を伴へり。單眼は顯著にして其の周緣は黑色なり。觸角は體よりも長く、6節より成り、第1、第2の兩節は薄黑く、殘部は黑色なり。第1節は第2節の約1倍半大、第2節は長幅約同大なり。第3節は第4節よりも長くして、全長に亙りて多數の長楕圓狀感覺器を具へたり。第4節は第5節よりも僅かに長くして約15個の小圓感覺器を具へ、第5節は第6節の基部の約2倍大にして後半部にのみ約13個の楕圓狀感覺器を具へたり。末端なる1個の原生感覺器は圓狀なり。第6節の基部は鞭狀部の約2倍長あり。胸部は前胸部比較的大にして、薄黑く、1對の黑色斑紋を具へたり。中、後の兩胸部は黑色なり。翅は概して準透明なれども前緣に沿ふ部域は特に翅斑脈を含み中脈の第3枝に亙る一帶は黑色なり。前翅の中脈は3枝を成し、第3枝は第2枝の約中點より生ぜり。後翅には中、肘の兩脈あり、後翅にもまた前緣に沿ふて黑く特に翅鉤附近に於て然り。肢脚は腿節異狀に肥厚せり。跗

節と爪と腿節の後半部とは黑く、他部と他節とは淡綠色なり。腹部の背面には各環節の中央に横走黑色帶を有し、且つ側緣には大形の黑色斑紋を具へたり。氣門は灰白色なり。蜜槽は準德利形にして中央膨大し、先端に近き部分は基部に近き部分よりも細まれり。全長に亙りて黑色乃至薄黑し。尾片は瘤狀にして若干の長毛を生じ、黑色を呈せり。尾板は彎入して若干の毛を生じ、黑色なり。

產卵性雌蟲

體は卵狀にして若干の顯著なる毛を生ぜり。黃橙色なり。頭部は黑色ならず、極めて薄く黑色を呈する如く思惟せらるゝ標本もあり。複眼は顯著にして赤色にして、同色の眼瘤を伴へり。眼瘤は3個の個眼が集まれるものあり。口吻は辛じて中肢に達し、末端のみ黑く、殘部は體と同色なり。觸角は體と約同長にして6節より成り、第1、第2の兩節は薄黑く、殘節は眞木炭色なり。第1節は第2節の約2倍大、第2節は長さよりも幅が幾分大なり。第3節は第4節と約同長、第4節は第3節若くは第5節よりも短し、第6節の基部は鞭狀部の約2分の1長にして、鞭狀部と第5節とは約等長なり。胸部は黑色ならず、前胸の背板の中部後端よりは1對の角狀突起體を生じ、此者は黑色なり。肢脚は腿節著しく膨大せり。腿節は體と同色なり。脛節は薄黑く、跗節と爪とは黑色を呈せり。後脛節に限り基半部著しく肥厚し、此部に小圓感覺器を多數に具へたり。腹部は黑色の斑紋を具へたり。蜜槽は德利狀にして中央は膨大し、先端部にして全長の3分の1に當る部分は最小なり。黑色を呈せり。尾片は瘤狀にして數個の長剛毛を生じ、黑色なり。尾板は彎入して若干の毛を生じ、黑色なり。

宿主植物　カヘデ。

分布　岩手縣盛岡市（因に本種は大正十四年十月に盛岡市櫻木小學校門前の鉢植カヘデに多數發生せしも爾後其隻影だにも見る事なし)。